

沈んでいく夕日で海が輝く。遠くに見える瀬戸大橋、雰囲気たっぷりの景色を眺めながら肩を寄せ合うカップルたち…。レジャー施設・ゴールドタワーの近く、香川県宇多津町浜一番丁にある道の駅は「恋人の聖地」と呼ばれる。



静岡市のNPO法人が2006年、四国では初めて聖地に認定。それを記念して設置された黒御影石のモニュメント(高さ1・8m、幅3m)のそばにある白いベンチやアーチには、恋人たちの名前と「ずっと一緒」などのメッセージが書かれた南京錠がた

①6 うたづ臨海公園 (香川県宇多津町浜一番丁)

くさん掛けられている。岡山と香川県をつなぐ瀬戸大橋にちなみ、「結ばれる」などの御利益があるとか…。近くには結婚式場もあり、時折、チャペルの鐘の音が聞こえる。

初めて訪れた公務員丸澤良弘さん(21)「兵庫県伊丹市」と、会社員陽山亜美さん(25)「同県尼崎市」のカップルは「瀬戸大橋がきれいで落ち着いた雰囲気。聖地に来たので『ゴール』できれば」とうっとりしていた。

正式名称は「恋人の聖地 うたづ臨海公園」。1998年に道の駅に登録され、年間30万人以上が訪れる人気ぶりだ。

5・6月の園内には、恋人たち以外にも楽しめる施設が充実している。地元食材を使ったレストランや、ライブ会場となるホール、FMラジオのスタジオなどを備えた本部棟「うたづ海ホテル」のほか、16種類の遊具が設置された広場もある。全国有数の製塩地として栄えた町の歴史に触れられるのが「復元塩田」。海水を天日にさらして濃縮する作業を再現、年間約2トンの塩が生産され、あめなどを

夕日美しい恋人の聖地



恋人の聖地に認定されている道の駅。瀬戸内海に沈む夕日が美しい

子どもたちの元気な声が絶えない遊具広場。後ろにゴールドタワーが見える



作って園内で販売している。「地域を支えた産産を伝えたい」とス タッフの川染順司さん(42)。夏休みの課題研究で訪れる小学生も多 いう。 海沿いのデッキを散歩するお 年寄りがいる。遊具で遊ぶ子ども たちの声は元気いっぱい。そ もたちの声は元気いっぱい。そ して寄り添う恋人たち。一般に 頭に浮かぶ特産品や食を前面に

出した「道の駅」とは違ったイ メージだ。 管理する宇多津町振興財団の 井元俊夫事業部長(68)は自信を 込めた。「老若男女が楽しめる 場所。素晴らしいオーシャンビ ューがあなたを待っています」 (小川正貴) 土曜掲載